



ENSHOW® Newsletter

今月のトピックス：安全・安心な住空間を考える（後編）

株式会社円昭ホームページ <http://www.enshow.com>

発行人：前田由紀夫 編集人：中村友一

水無月、春から夏へと変わる時期です。田に水を引く月という意味があり、各地の神社では豊作を祈って夏祭りが始まります。また、毎年20、21日あたりは夏至となり、北半球では一番太陽が高い位置となります。この季節は梅雨前線が降り注ぐ日の光をさえぎります。しかし、梅雨の晴れ間には空気が透き通った特別な光の美しさがある気がします。



■ 安全・安心な住空間を考える（後編）

今回はセキュリティーを取り上げます。一言にセキュリティーと言っても、「建物本体」に施して安全性を高めるもの、「環境要因」でその安全性を確保するものに別けられます。初めに建物本体の安全ですが、これは侵入者が入り辛くする工夫です。例えば、鍵を二重にする。出入りのない窓には外部から取り外しのできない面格子を取付ける。窓をペアガラス（ガラスとガラスの間に特殊なフィルムの入ったもの）に取り替えたり、防犯フィルムを貼ったりします。網入りガラスはガラスが飛散しないだけなのであまり効果はありません。そしてドアはもちろんのこと窓にも鍵は二個取付けるようにします。クレセント錠（始めから取り付けてあるもの）とは別に一方の鍵が開けられたとしてももう一つで守るように仕掛けます。これらの対策はあくまでも、窃盗犯に対しての進入を遅らせるのが目的となりま

す。通常進入に5分以上かかりそうな場合はあきらめることが多いようです。また、塀やマンションのベランダで死角になりやすいところは十分注意が必要です。一旦侵入してしまえばいくらでも時間が使えます。また、オートロックだと言っても安心はできません。住人を装って誰かと一緒に侵入したり、裏口からこっそりと忍び込んだりするケースもあります。近所付き合いが希薄なマンションの住人はその人が住人か来客か不審者かの区別はつきません。さらにマンションにおいては死角となる場所は要注意です。自転車置き場、ポンプ室への入り口、駐車場などです。物理的な対策としては、鍵の強化、音、光、防犯カメラ、警備会社の自動監視システム等があげられます。今はホームセンターなどで安価な商品が数多くありますので場所にあわせた効果的な防犯対策が可能で、一度侵入された住宅は二度三度と狙われるという傾向もあります。気がついたときに絶対に入られない気持ちで対策をとるべきだと考えます。また、環境要因としては、駅から近く、自宅までに暗がりや茂み等がなく明るく人通りがあるほうが良いでしょう。安全性は周辺の環境に目を配ってみれば解ります。危険なのは死角のあるマンションや事務所です。空き家や乗り捨ててある自動車やバイク等がないかもチェックします。集合住

宅では「ポストの周りにチラシがたくさん落ちていて汚い。」「建物外部に燃えやすい物やごみが散乱している。」などは危険度を確認するのに簡単な手法です。では、これらの危険が少ない住空間を探すにはどうしたらよいのでしょうか。部屋の間取りや内装、建物の外観だけにとらわれるのではなく、地域コミュニティがしっかりと確立されているエリアを探すことをお勧めします。町内会や自治会の活動が活発で、近所付き合いも程よくある。子供を安心して近所の公園で遊ばせることのできるエリア等でしょうか。人は住宅の中だけを見て、自分の空間を想像しますが、地域のコミュニティがあってこそその安全であり安心です。プライバシーである扉の内も外もバランスよくする必要があります。一見面倒に感じるかもしれませんが、いままたご近所付き合いが見直されてい

ます。人の目があればそれだけ犯罪の芽を摘むことができます。もちろん、警備会社や防犯装置は必要なものですが、実は最も安全な防犯対策は近所とのバランスのよい付き合いかもしれません。昨今そういったコミュニケーションが苦手な方もみえますが、これを寄稿している筆者自身も苦手な一人です。しかし、苦手だから遮断するのではなく、また受け入れる側も、苦手な人もうまく地域コミュニティに受け入れ住空間の内外をバランスよく保つのが安全、安心の暮らしとなると考えます。また、そういった空間はお金では買えませんが、安心できる安全なコミュニティのある不動産は必ずその価値が上がると思われれます。チラシやカタログには載っていませんが、しばらく関心のあるエリアを歩いてみるのはいかがでしょうか。 前田由紀夫



クールビズがやって来る!

昨今、どんな格好で出勤すべきか悩ましい季節になりました。去年の夏はずいぶんラブな格好の人が多かった気がします。環境省が旗振り役のCO2削減計画は見た目では成功したようです。クールビズは夏の空調機の温度を28℃に設定するもので、今月から9月まで行われます。昨年はこの企画に4,000社以上の企業が参加したようです。しかし、おじさんもファッションを考えなくてはならないのは少しばかり面倒です。スーツ姿はネクタイさえ替えれば何も考えなくてよいのですが、薄っすらと色や柄の入ったシャツを襟元から着こなす!と言うのはセンスのない人種には苦痛です。かえって、緊張し、人の目が気になり熱くなります。さて、今年もクールビズの始まりです。

保険を考える

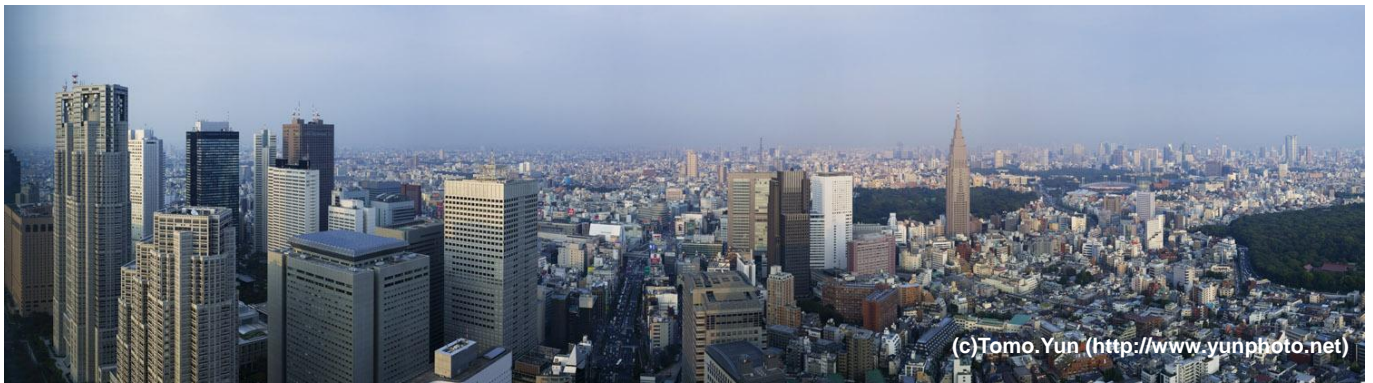
その7 学資保険について Part. 1

文部科学省の調査によると、子どもにかかる教育費は幼稚園から大学までオール国公立、最安の場合でも800万円、高校から私立に進むと1,000万円以上、中学から私

立だと1,300万円は覚悟しなければなりません。もちろん医学部、歯学部に進むケースは、これよりもずっと大きな教育費が必要となります。教育費を貯めるための定

番と言えば郵便局の学資保険毎年70万人もの加入者がいると言われます。しかし、最近の「保険の見直し」ブームの中で、見直しについてファイナンシャルプランナーに相談される方も多くなっていますが、その相談の中で一番多いのが、郵便局の学資保険を別の保険に変えたいという相談だそうです。学資

保険の魅力はその貯蓄性ですが、低金利の現在、受け取る学資金総額は月払いの場合、保険料総額を下回ってしまいます。金利上昇の可能性も見込まれる現在、現在の低金利で固定されるデメリットも考えると、学資保険で教育費を貯めるよりも、他の貯蓄商品考えた方がいいかもしれません。FP タダシ



(c)Tomo.Yun (http://www.yunphoto.net)



仮処分

聞いたことはあるけれど、あまりよさそうな言葉ではない感じませんか？仮処分とは、自己の権利保全をするために、裁判所から保全命令を出してもらった保全処分です。例えば、お金を借りた人がお金を返さずに自分の財産を勝手に売り払ってしまうような場合に、債権者として緊急に手を打つようなときに使います。これを「処分禁止の仮処分」と言います。また、高層マンション建設などの日照障害などの「建築差止の仮処分」等があります。

お勧めの一冊

司法のしゃべりすぎ 井上 薫 (著)
新潮新書 ¥714[税込]



この著者は元判事です。判決理由が蛇足であるという主張は実に興味深く、裁判を見る目が変わることは間違いありません。著者は、再任に当たっての横浜地裁所長の評価について、「判決理由の長さを非難し、人事権と指名権を武器に改善を迫った」もので、「裁判官の独立を侵害する裁判干渉で違憲かつ違法」であるとして、罷免を求める訴追請求状を国会の裁判官訴追委員会に提出していたとのこと。しかし著者が裁判官の席に就くことはもうないと思われます。

～無礼講で一杯～



先日、事務所近くの居酒屋でスタッフの歓送迎会がありました。いまだきの若者は何を考えているのか？一杯呑んだ席で色々話してみました。(20代4名、30代3名、40代2名、60代1名)教育基本法、竹島問題、尖閣諸島、東京裁判から献血の話まで。実に様々な意見や考えが飛び交いました。あまりにも過激な会話で、ここには記せないことも多くありました。その中でも、体罰と教育については、その時代背景によって扱いがかなり違うのだという印象を受けました。ほとんどのスタッフが教育と体罰は関連性があり、ある一定限度は許容されるという意見でした。40代以上はなぜか皆体罰の体験者であり、そもそも当時それが問題視される事すらなかったようです。しかし、20代になるとかなり様子が変わります。「体罰をする先生がなぜ体罰をするのか」という論理を語れないのが問題。」とか、「先生が生徒に体罰の違法性を論破されてしまう事もあった」と言う話もありました。また、体罰の定義が時代によって大きく違うのも気になります。今は、「校庭を10周走ってこい！」というのも体罰のようです。体罰は教育現場で必要なのでしょうか？また、体罰は暴力なのでしょうか？家庭での躰に問題はないのでしょうか？価値観の違いがこういった問題を生んでいるのでしょうか？これらの年代を一例に並べて色々話してみると教育の現場だけでは片付かない問題がたくさんあるのだと感じさせられました。宴もたけなわの頃、歓送迎会は大激論会になっていました。

人として・組織として成長を目指す ENSHOW Corporation が「変化から進化」をモットーに毎月「ENSHOW Newsletter」を発行しております。あるときは世界経済の視点で、又あるときは身近な視点で、皆様にわかりやすく情報提供出来ればと思っております。

同様のメールマガジンも発行しておりますので、ご希望の方は mail@enshow.com までご連絡ください。(メールの内容はテキスト形式となります。)



株式会社 円昭

〒466-0031

名古屋市昭和区紅梅町 3-4-2

TEL : 052-841-2701

FAX : 052-841-4301

mail@enshow.com

http://www.enshow.com